

<問い合わせ状況 2024年9月>



院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に5～10件程度の問い合わせに対応しています。9月の疑義照会は3件で、内容は以下の通りでした。



- 用法用量確認（2件）
- 残薬調整（1件）

また、周南地区では疑義照会に関するプロトコール（当院 Web サイト参照）を作成しており、これを利用した処方変更が可能となります。9月は7件でした。

薬に関する問い合わせ（患者・家族・施設より）

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。

9月はお問い合わせが1件ありました。

- （薬を持っておられ）薬効が知りたい



薬に関する問い合わせ（院内より）

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。記録してあるDI室への問い合わせは、9月は6件でした（病棟で直接質問されたことは未記載の可能性ががあります）。

◎がついたものについては回答をDIニュース No. 463 に記載しています。

◎ソル・コーテフ[®]注の代替薬について

- ストロメクトール[®]錠による肝機能低下はどの程度の期間で回復するか？

→服用開始2～3日後より発現し、3～4週くらいで回復したという症例報告が多い

- テリボン[®]とオスタバロ[®]の投与期間は？

→テリボンは24ヵ月、オスタバロは18ヵ月

◎ビソノ[®]テープとビソプロロール内服を切り替えるタイミングは？

- 抗てんかん剤を服用している患者が入院したが、内服が難しい。注射だと何が良いのか？

→カルバマゼピンとゾニサミドを服用されていたので部分発作だと思われる。

当院採用薬ではレベチラセタムを通常量で良いと考える

- 透析患者へのバラシクロビルの投与方法は？

→体重60kg以上の場合、透析後に500mgを投与（週3回）

